

## 京都府

## 地域特性を踏まえたわかりやすい地図作成のポイントを解説

### 支援概要

#### ■支援の経緯

M支え合いの会は地域の自治体や学校、病院、福祉協議会などと連携を行い、地域の様々な活動の支援を行うためにプロジェクト会議を定期的で開催している。

M地区の地形は低地帯であり洪水、土砂崩れの被害リスクが高い状況であり、今回の豪雨災害でも一部の地域で浸水の被害があった。今回のような豪雨災害があった際に迅速かつ冷静に避難できるようハザードマップの作成をしたいと考え専門家派遣の支援を要請した。

最終的なアウトプットとしてはM学区のハザードマップを住民に配布する予定である。

専門家の選定した理由はアートデザイナーとしての専門家として定評が高い点と京都市在住M区にも知悉している点の2点である。専門家の視点から有益な助言を頂きたい。

#### ■専門家による具体的な支援内容

「M支え合いの会」第6回プロジェクト会議にてハザードマップの作成の支援を専門家より行った。M地区には多くの高齢者が居住しているという特性を踏まえて、わかりやすい地図作成のポイントとして以下の9点を説明した。

- ①目的地を上にして描く
- ②できる限り正確な形や角度で描く
- ③目的地を目立たせる
- ④出発地点で進行方向を間違わないようにする
- ⑤分岐点には必ず目印を加える
- ⑥分岐点の間にも目印を加える
- ⑦間違った経路にも目印を加える
- ⑧目印は昼でも夜でも目立つものを選択する
- ⑨正しい経路を目立たせる

また上記指摘を踏まえた地図のレイアウト例とデザイン例を複数提示した。

### 支援の効果

M支え合いの会のメンバーが防災マップ作成においてどのような点に気をつけて作成すればいいのかを学ぶことができ、会として方向性が定まった点が一番の成果である。

今回の支援をきっかけに専門家と連携してハザードマップの完成を目指したい。

### 専門家の声

M地区は低地帯で、災害地区に指定されている。異常気象が起こった際に退避経路を定めておくことが大事である。またM学区は高齢化が進んでおり、高齢者が理解できる防災マップを作成することが必要であると再認識した。引き続き支援を実施していきたい。

### 事業者の声

専門家の支援を受ける前はハザードマップの構想自体はあったが、なかなか前進しなかったのが実情である。

しかし専門家の支援を受けることにより具体的なハザードマップのデザインまで進捗することができ、非常に満足している。

2019年4月を目途にハザードマップを完成させ、地域に配布できるよう進めていきたい。